

奄美大島におけるホソバノキミズの再発見

田金秀一郎¹・布施健吾²・佐藤広行²・矢原徹一²¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館² 〒 819-0395 福岡市西区元岡 744 九州オープンユニバーシティ

はじめに

ホソバノキミズ (*Elatostema lineolatum* Wight) はネパール、ブータン、インド、スリランカ、ミャンマー、タイ、ベトナム、中国、台湾に広く分布している高さ 0.5–2 m のイラクサ科の小低木である (Lin et al., 2003; Tseng and Hu, 2015; Fu et al., 2019). 日本においては、山崎 (1995) が 1887 年に田代安定氏が沖縄島で得られた標本 (TI に収蔵)、および 1910 年と 1924 年にそれぞれ生熊与一朗氏、田代善太郎氏が奄美大島から得られた標本 (それぞれ KYO, KYO & TI に収蔵) に基づき、国内の分布報告を行った。しかしながら、これらの標本以降、長らく自生に関する記録がなく、米倉 (2016) では「日本では琉球の奄美大島と沖縄島で過去に採集されたことがあるだけで、戦後誰も見た人はいない」と述べられるなど、鹿児島県 RDB (鹿児島県, 2016) や環境省レッドリスト 2020 (環境省, 2020) では絶滅種として扱われている。

著者らは 2020 年 10 月 24 日に実施した奄美大島の調査で、常緑樹林の沢沿いでホソバノキミズの生育を確認し、標本を得ることができた。奄美大島での分布確認は約 100 年ぶりのことであり、奄美大島におけるホソバノキミズの生育状況について報告する。

なお、ホソバノキミズの学名として、山崎 (1995)、鹿児島県 (2016)、環境省 (2020)、台湾 (Tseng and Hu, 2015) では、*Elatostema lineolatum* var. *majus* が用いられているが、Flora of China (Lin et al., 2003) やベトナムの *Elatostema* のチェック

リスト (Fu et al., 2019), The Plant List (<http://www.theplantlist.org/tpl1.1/record/kew-2786965>) では var. *majus* は区別されていない。*Elatostema lineolatum* のレクトタイプ標本 (Wight 269, K000575282) は、葉の大きさを含む形態の特徴において、奄美大島で再発見されたホソバノキミズによく一致する。このため、この報告ではホソバノキミズの学名として *Elatostema lineolatum* を用いる。

観察記録

ホソバノキミズ *Elatostema lineolatum* Wight, Icon. Pl. Ind. Orient. 6: t. 1984 (1853).

Syn: *Elatostema lineolatum* var. *majus* Wedd., Arch. Mus. Hist. Nat. Paris 9 [Monogr. Urtic.]: 312 (1856). 図 1.

ホソバノキミズは、茎が分枝する小低木である、葉縁に歯牙状の鋸歯がある、基部に明瞭な一对の主側脈がある (三行脈状)、葉が左右非対称である、葉の基部は楔形である、茎に密に剛毛がある、などの特徴によって容易に同定できる種である (Lin et al., 2003). 今回我々が確認した植物は、これらの特徴からホソバノキミズであると同定される。ホソバノキミズは、奄美大島の標高 30 m の常緑樹林内の岩が露出した枯れ沢に、約 3 m × 2 m の範囲に群生していた。林内は高木層としてオキナワジイやアマミアラカシ、イスノキ、モクダチバナなどが優占し、下層植生にはキミズやヘツカシダ、ミヤマハシカンボク、フウトウカ

Tagane, S., K. Fuse, H. Sato and T. Yahara. 2020. Rediscovery of *Elatostema lineolatum* (Urticaceae) in Amami-oshima Island, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 47: 151–153.

☑ ST: The Kagoshima University Museum, 1–21–30 Korimoto, Kagoshima 890–0065, Japan (e-mail: stagane29@gmail.com).

Received: 2 November 2020; published online: 3 November 2020; http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_047/047-030.pdf



図1. ホソバナノキミズ *Elatostema lineolatum* Wight. A: habit; B: leafy branch; C: lower leaf surface; D: stipules. Photos all taken in Amami-oshima Island on 24 Oct. 2020.

ズラ、ヤリノホクリハランなどが一緒に生育していた。本種は花が地味で観賞価値が低く、盗掘されるような種ではないと思われるが、その希少性を考慮して自生地の詳細な情報については公開を差し控えたい。

奄美大島には、同じウバミソウ (*Elatostema*) 属として、アマミサンショウソウ (*Elatostema oshimense* (Hatus.) T. Yamaz.) が知られる。しかし、アマミサンショウソウは地を這うように茎を伸ばす矮小な草本で、葉は長さ3–7 mm 幅2–6 mm と小型で全縁か鋸歯が1–2個あるだけ(米倉, 2016)であり、ホソバナノキミズとは容易に区別可能である。

奄美大島の自生地は国内における分布の北限でもあり、調査範囲を拡大し、その集団と生育個体数に関する正確な情報を収集し、再度「絶滅」と評価されぬよう注意していく必要があるだろう。

証拠標本 JAPAN. Kagoshima Pref.: Amami-oshima Island: 24 Oct. 2020, Tagane et al. K832 (KAG151538).

謝 辞

奄美群島国立公園管理事務所には調査・採集許可でお世話になった。本研究は鹿児島大学経営戦略経費(島嶼)の「奄美群島を中心とした島嶼グローバル教育研究拠点強化 及び国内外組織と

の連携推進」および環境省の「環境研究総合推進費（4-2001）」の援助を受けて実施した。

引用文献

- Fu, L.-F., Monro, A., Do, T. V., Nuraliev, M. S., Averyanov, L. V., Wen, F., Xin, Z.-B., Maisak, T. V., Kuznetsov, A. N., Kuznetsova, S. P., Nguyen, K. S. and Wei, Y.-G. 2019. Checklist to the *Elatostema* (Urticaceae) of Vietnam including 19 new records, ten new combinations, two new names and four new synonyms. PeerJ 7:e6188 <http://doi.org/10.7717/peerj.6188>.
- 鹿児島県. 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物—鹿児島県レッドデータブック2016—植物編. 鹿児島県環境技術協会, 鹿児島, 499 pp.
- 環境省. 2020. 環境省レッドリスト2020. 環境省. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf>
- Lin, Q., Friis, I. and Wilmot-Dear, C. M. 2003. *Elatostema*. Pp. 127–162. In: Wu Z.-Y., Raven P. H., Hong D.-Y. (Eds) Flora of China Vol. 5. Science Press, Beijing; Missouri Botanical Garden Press, St. Louis.
- Tseng, Y.-H. and Hu, J.-M. 2015. Taxonomic revisions of *Elatostema* J. R. Forst. & G. Forst. (Urticaceae) in Taiwan. *Taiwania* 60 (1): 23–32.
- 山崎 敬. 1995. ホソバノキミズ琉球に分布. 植物研究雑誌 70 (3): 176.
- 米倉浩司. 2016. イラクサ科. Pp. 341–352. 大橋広好・門田祐一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 (編) 日本の野生植物 2. 平凡社, 東京.